

科目名	語学研修		科目コード Z11019
学年・学科等名	1・2 学年	専攻共通	選択科目
単位数・開講期	1 単位		
総時間数			
担当教員	特別研究担当教員, 引率教員		
JABEE対象外			
教科書名			
補助教材			
参考書			

A. 教育目標

日本の文化・歴史とは異なる国や地域に赴き、国際的に活躍できる技術者(研究者含む)に必要な能力の研鑽を図る。

B. 概要

国際的に活躍できる技術者の育成を目指し、実際に外国に行き、異なる文化を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図るための態度や能力の基礎を養う。現地では企業実習・成果発表・Excursion等を通して知識や見聞を広め、短期間での実践的コミュニケーション能力の向上を図る。

C. 学習上の留意点

この科目は、実際に海外において異文化コミュニケーションを体験することを目的としている。基礎的な英会話を初めとする事前研修、実際に海外の教育機関等において体験する英語コミュニケーション実習、帰国後に体験し、勉強したことを取りまとめて発表する報告会等の実施ノルマがあり、単なる海外体験とは異なる学習機会として臨むこと。

日常接することのない異文化に触れる、母国語の日本語と異なる英語を常時用いるとなど、我が国に暮らしては体験できないことを学べる絶好の機会である。見るもの聞くもの、全てを吸収しようという意気込みを持ち、貴重な経験とすること。

英語(外国語)科目、言語表現を始めとする人文系科目、我が国の文化・歴史を学ぶ社会系科目も関連科目となることを留意すること。

D. 学習到達目標

学習到達目標									
到達目標	1. 海外において、技術的分野等に係わるディスカッション能力の研鑽に取り組むことができる。 2. 海外の技術者等とコミュニケーションを図ることができる。 3. 異なる文化を学ぶことができる。								
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安						
到達目標項目 1	意欲的・積極的に海外でディスカッション能力の研鑽に取り組むことができる。	海外でディスカッション能力の研鑽に取り組むことができる。	海外でのディスカッション能力の研鑽に取り組むことができない。						
到達目標項目 2	外国人と的確にコミュニケーションを図ることができる。	外国人とコミュニケーションを図ることができる。	外国人とコミュニケーションを図ることができない。						
到達目標項目 3	異なる文化を学び、意欲的に尊重することができる。	異なる文化を学び、我が国の文化と比較することができる。	異なる文化を学ぼうとしない。						
達成度評価(%)									
	評価方法	試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	ポートフォリオ	その他(準備)	合計
指標と評価割合				50	40			10	100
基礎的能力				10	10				20
専門的能力									
分野横断的能力				40	30			10	80

E. 授業計画

講義の明細			
	授業内容	到達目標	自己点検
活動開始前	履修願の提出	履修を希望する場合は、「研修履修願」を担当教員に提出すること。	
事前指導①	基礎的な英会話を学び、外国人とのコミュニケーションに備える。	海外で研修するための基礎的な英会話や、当地の文化等を事前に学び、研修の意義や役割について理解できる。	
事前指導②	海外渡航に係わる手続きをする。	パスポートや航空券手配等渡航に係わる手続きを事前に処理することができる(海外旅行保険に必ず加入する)。	
海外研修	海外に渡航し、英語等を用いてディスカッション能力の研鑽や外国人とのコミュニケーションを図る。	心身の健康状態に十分に気を付けた上で旭川高専生として誇りある研修をすることができる。	
事後指導①	海外での体験や学習を報告書にまとめる。	研修の内容や、体験・学習したことを他者に伝えるための報告書を適切に書くことができる。	
事後指導②	報告書にまとめたものを報告会において発表する。	報告書の内容を適切に他者に発表することができる。	
総講義時間数			30 時間以上

F. 関連科目

全科目

科目名	課外研修		科目コード Z11020
学年・学科等名	1・2 学年	専攻共通	選択科目
単位数・開講期	1 単位		
総時間数			
担当教員	各学科専攻主任、専攻科長		
JABEE対象外			
教科書名			
補助教材			
参考書			

A. 教育目標

学外で実施される旭川高専専攻科の教育目標に関連する様々な研修に参加し、技術者(研究者含む)を目指す学生としての自己研鑽を図る。

B. 概要

学外で実施される旭川高専専攻科の教育目標と関連する目的を持った様々な研修に参加して自己研鑽を図る。なお、研修参加のみに留まらず、そのための事前準備や報告書の提出および口頭による研修参加報告も目標に含まれる。

C. 学習上の留意点

研修参加による単位認定については、当該研修が本校の教育目標に照らして適切であり教育的効果が認められることが条件である。課外研修に該当するか否かについては、研修指導教員等から提出された申請書に基づき教務委員会の審議より決定される。

研修期間(必要に応じて準備時間む)及び報告会等の実施時間を合算して30時間以上となる場合に1 単位を認定する。ただし、1 回の研修で30 時間以上に到達しても、同一学年で認定する単位数の上限は1 単位である。また、同一学年で30時間以上の研修に2 回以上参加しても、単位申請できるのはいずれか1 単位相当の研修だけとする。単位認定を申請する際には、研修実施機関が発行した研修修了証明書または成績証明書等、あるいは本校別紙様式2 による研修の参加証明書を提出すること。

※研修時間には研修実時間の他に日誌や週報の作成時間、参加報告書の作成と参加報告会も時間に含むので、分けて記載する。また、実施機関の成績評価を特別研修の成績評価に用いる場合は成績証明書を添付すること。研修のために行う事前の準備時間については教務委員会が認めた場合に時間数に含めることができる。

D. 学習到達目標

学習到達目標									
到達目標	学外で実施される様々な教育的研修により、自らのキャリアを考え、自己を研鑽することができる。 ※詳細な到達目標は研修ごとに単位取得申請書(別紙様式1)に明記される。								
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安			未到達レベルの目安				
到達目標項目	研修事前準備を十分に行い、研修の目的を良く理解した上で研修に参加し、研修で学んだことを自身の将来にどのように役立てていけるかについても考察することができる。	自身が何を学びたいのかを理解して研修に参加できる。適切な報告書の提出と参加報告を行う事ができる。	目的を理解しないまま研修に参加し、自身の将来との関連についても考えることができない。						
達成度評価(%)									
	評価方法	試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	ポートフォリオ	その他	合計
指標と評価割合									
総合評価割合	特別研修の評価方法について:								
基礎的能力	教育目標とのの係わりから研修ごとに評価項目が設定され、総合成績が60 点以上で合格とする。ただし、研修参加報告書の提出と口頭による研修参加報告は必ず評価に含まれ、それらは複数教員により評価される必要がある。詳細については単位取得申請書に記載される。								
専門的能力	報告書は任意書式とする。								
分野横断的能力									

E. 授業計画

講義の明細(特別研修実施と単位取得に係る手続きの流れ)		
授業内容	具体的な行動達成目標	自己点検
研修開始前 事前研修報告書(様式は別途定める)の提出	研修の内容、研修期間中の自己目標について事前研修報告書を提出する。あらかじめその研修で何を学ぶとするのか、良く考えておくこと。	
研修活動開始に係る手続き 1)単位取得申請書の提出 2)傷害保険契約締結	1)事前「課外研修単位取得申請書(別紙様式1)」を研修の研修指導教員から学生課教務係に提出する。提出された申請書については、研修内容、本校教育目標との関連、評価方法等が本校の単位として適切かどうかを教務委員会で審議する。 2)研修に参加する場合において、国内外の旅行をとまなう場合、または研修中に怪我をする可能性がある作業等を行う場合には個別に傷害保険等に加入しておくことが望ましい。	
課外研修の実施 1)課外研修 研修期間中は報告日誌(様式は別途定める)を毎日書くこと 2)参加証明書等の提出	1)心身の健康状態に十分に気を付けた上で、高専生として誇りある活動を常に心がけ、行動や言動に責任を持ち、礼節を守って研修に参加する。また、研修中に事故があった場合、不測の事態に遭遇した場合には速やかに学校へ連絡すること。研修期間中は報告日誌を毎日書くこと。 2)研修終了(修了)後、当該研修の参加証明書または成績証明書等を学生課教務係に提出すること。また、参加証明書は、実施機関が発行した証明書のコピーまたは本校別紙様式2 を用いること。	
研修参加終了後	研修参加報告書および研修ごとに定めた評価方法に応じた必要な文書等を提出し、研修参加の報告を行うとともに複数教員による評価を受けること。	
総学習時間		30 時間以上

F. 関連科目

全科目

科目名	地域社会研修			科目コード Z11021
学年・学科等名	1・2 学年	専攻共通	選択科目	
単位数・開講期	1 単位			
総時間数				
担当教員	各学科専攻主任, 当該窓口担当教員			
JABEE対象外				
教科書名				
補助教材				
参考書				

A. 教育目標

地域社会活動を通じて実社会の生きた知識や知恵を学ぶことで、実践的研究開発型技術者を目指す糧とする。

B. 概要

地域社会活動を通じて、実社会の生きた知識を身に付け、地域社会に貢献することの意義を理解することを目的とし、実働による地域社会貢献を到達レベルとする。

C. 学習上の留意点

地域社会活動にあたっては、地域社会活動の役割や意義を十分に理解した上で、高専生として誇りある活動を常に心がけ、その行動や言動に責任を持ち、礼節を守ること。また、活動にあたっては、安全面及び心身の健康状態に十分に注意して臨むこと。

所定の「地域社会活動報告書」および「地域社会活動証明書」またはそれに替わる書類で30 時間以上の活動を行ったことを確認することにより、達成を評価する。

地域社会活動により「態度・志向性(人間力)」の主体性、責任感、チームワーク、倫理観を評価するものとする。なお、前年度において対象となる地域社会活動に参加した学生については、その活動時間(30時間に満たない時間)を本年度の活動時間に合算した累計活動時間として確認を受けることができることとする。

D. 学習到達目標

学習到達目標								
到達目標	地域貢献活動の役割や意義を十分理解した上で、高専生として誇りをもって活動ができる。							
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安			未到達レベルの目安			
到達目標項目	地域社会活動の役割や意義を十分に理解し、その行動や言動に責任を持ち、礼節を守ることができる。	地域社会活動の役割や意義を十分に理解している。				地域社会活動の役割や意義を十分に理解していない。		
達成度評価(%)								
評価方法	試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	ポートフォリオ	その他(研修報告書)	合計
指標と評価割合								
総合評価割合							100	100
基礎的能力								
専門的能力								
分野横断的能力							100	100

E. 授業計画

講義の明細(地域社会活動単位取得に係る手続きの流れ)		
授業内容	具体的な行動達成目標	自己点検
活動開始前 1)履修願の提出 2)事前の学習活動	1)履修を希望する場合は、「地域社会研修履修願」を担当教員に提出すること。 2)地域社会活動への参加や関係文献による学習等により、地域社会活動の果たす役割や意義について事前に十分に理解しておくこと。	
活動開始に係る手続き 1)活動届の提出	1)指定書式の「地域社会研修届」を事前に担当教員に提出すること。 【研修対象となる地域社会活動】 ①学生委員会またはその他本校教員が計画して実施する地域社会活動 ②地方公共団体等の公的機関が主催する地域社会活動 ③その他参加希望があった活動のうち学生委員会が承認した地域社会活動	
2)災害保険契約締結	2)災害復興のための活動等の危険を伴う活動に従事する場合は、必ず地域社会活動保険に加入すること。また、それ以外の活動についても同様に地域社会活動保険に加入しておくことが望ましい。	
地域社会活動の実施 1)活動の実施	1)心身の健康状態に十分に気を付けた上で高専生として誇りある活動を常に心がけ、行動や言動に責任を持ち、礼節を守って活動を行うこと。また、活動中に事故があった場合等、不測の事態に際しては速やかに学校へ連絡すること。 2)所定の「活動証明書」に活動した日時及び活動内容を記入し、受入機関の担当者に内容の確認及び証明を依頼すること。	
2)活動証明書の作成		
活動終了後 1)活動証明書の提出 2)活動報告書の提出	1, 2)活動終了後速やかに所定の「研修報告書」を作成し、上記の「活動証明書」と一緒に担当教員に提出すること。	
地域社会活動総時間数		30 時間以上

F. 関連科目

全科目